

⑤1 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院建設事業

受賞機関 新潟県 土木部 都市局 営繕課

<評価>

地域の拠点的医療（三次救急、紹介外来、急性期入院等）を担う「基幹病院」とともに、「地域医療を担う医師等を育成する病院」、「研究機能を有する病院」等の機能を併せ持った病院建設事業。救急救命医療などの空白地帯に、全国でも例のないモデルケースとしての医療人育成など、持続的な地域医療の充実が図られた点が評価された。

はじめに

本病院が立地する新潟県魚沼医療圏は医師数が県内の他医療圏と比べて最少であり、また、医療圏内に救命救急医療や高度医療を担う医療機関もなかった。その対策として、本病院は「地域医療を担う病院」、「地域医療を担う医師等を育成する病院」、「研究機能を有する病院」等の基本方針に基づき、地域の拠点的医療を担う「基幹病院」として整備され、平成27年6月1日に開院した。

事業の概要・成果

本病院は、病院の整備と合わせて実施された既存県立病院の地元市への移管等による医療再編（医療圏内の各病院の機能分担）及び周辺病院・診療所等の地域の医療機関をも含めた医療連携ネットワークの構築等による「地域完結型医療」の実現に向け、中核的な役割を担っている（規模構造：鉄筋コンクリート造 地上9階建（基礎免震構造）延床面積：33,549.31㎡（附属建築物を除く））。本病院を核とした医療再編は、地域の医療資源に限られるなか、「地域全体でひとつの病院」をスローガンに、一つの病院で全ての役割を担うのではなく、地域の医療機関が役割を分担



新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院

し、連携しあう体制を目指している。また、全国で医療スタッフの不足が深刻化しているなか、新潟大学の医療人育成の舞台である「地域医療教育センター」を併設し、研修医をはじめとした医療スタッフが集まる仕組みを作り、県内外から多くのスタッフが集まる効果が期待されている。

おわりに

本病院における医療再編の取組みは、全国にも例のないモデルケースであり、開院後は全国各地の病院関係者が視察に訪れている。また、本病院には医療スタッフの意見を取り入れた最新の設備や医療機器をそろえており、全国のモデルとしてふさわしい病院が整備できたものと自負している。

賛助会員 (株)朝日工業社北関東支店、三協設備工業(株)、大成建設(株)、日新設備工業(株)

⑤2 苫小牧港西港区ー9m耐震強化岸壁整備事業

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

<評価>

RORO船貨物を取扱う拠点であるがRORO船貨物の利用に適した施設規模となっておらず、また老朽化による不具合も有ることから、利便性の改善などを行った事業。本事業により、荷役に必要なスペースや車両動線を確保した点、岸壁の耐震強化で震災時でも物流維持が可能など、石炭灰や建設発生土の使用により建設コストを30%程度削減した点が評価された。

はじめに

苫小牧港は、北海道の太平洋西南部に位置する国際流通拠点港湾であり、北海道全体の港湾取扱貨物の約5割、外貿コンテナ貨物の約7割を扱っており、北海道の経済、産業を支える重要な港である。苫小牧港西港区西ふ頭は、RORO船貨物を取り扱う拠点として週7便が就航しているが、RORO船貨物の利用に適した施設規模となっておらず、また、老朽化による不具合も有ることから、利便性の改善が求められていた。

事業の概要・成果

当該施設は、老朽化が著しく本体工の矢板の継手から裏込材が流出し施設倒壊の危険性が懸念され、利用上は一般貨物対応の施設として整備されたため、岸壁直背後に上屋が存在しエプロン幅が狭く、非効率な荷役を強いられていた。さらに苫小牧港西港区では耐震強化岸壁が整備されていないため、背後圏人口19万人に対する海上からの緊急物資輸送の受け入れが確保されていない状況であった。これらのことから、大規模地震災害発生時における海上から



苫小牧港西港区西ふ頭

の緊急物資輸送の受け入れ確保を目的とし、RORO船貨物における荷役作業の効率化を図るため耐震強化岸壁整備事業を行った。

工事では、老朽化対策として岸壁法線の前出しと上屋の撤去によるエプロン拡幅、地盤改良材として苫小牧港に隣接する苫東厚真火力発電所により発生した石炭灰を添加剤として使用したことでセメント量を削減し建設コストの約30%を縮減し、さらに改良土には建設発生土も有効活用した。

おわりに

本事業により、震災時における海上からの緊急物資の受け入れが確保され、地域住民の不安を軽減することができた。また、RORO船の安全な係留と内貿ユニットロード貨物の効率的な利用が可能となった。